

宍道湖流入・流出水調査月報

(平成12年7月期)

水質概要

7月の水温は、表1に示すとおり平年値(上層26.1、中層26.1、下層25.8)に比べて若干高い値での変動であった。図1に示すように、7月の水温変動は25~30で変動しており、高塩分水の流入時に水温の低下が見られた。また、水深による顕著な差異は見られなかった。とくに、7月12日および7月21日~25日の25psu以上の高塩分水流入時には中層および下層で水温の急激な下降が顕著に見られた。

7月の塩分は、表1に示すとおり平年値(上層7.6psu、中層11.3psu、下層12.3psu)に比べて、上層、中層、下層ともに高い値を示していた。また、7月においては15psu以上の高塩分水の流入は毎日観測され、7月21日~25日にかけて中層および下層に25psu以上の高塩分水が長期間にわたって停滞していた。このことは、7月21日以降の気圧の低下によるものと考えられる。7月は、気圧低下と高塩分水の流入に顕著な関係が見られた(図2参照)。

7月の溶存酸素濃度は、表1に示すとおり上層・中層・下層ともに2.8~4.4mg/lと比較的高い値を示していた(平均値:上層3.9、中層:3.3、下層:3.2mg/l)。図1に示すように、15psu以上の高塩分水の流入時に溶存酸素濃度の低下が見られた。とくに顕著な変動は、7月22日~25日が顕著であった。

表1 7月期の水質概要

		水温()	塩分(psu)	溶存酸素濃度(mg/l)
上旬	上層	28.3	9.3	4.4
	中層	28.2	11.8	3.6
	下層	27.8	11.9	3.7
中旬	上層	27.7	12.7	4
	中層	27.4	16.6	3
	下層	27.3	17.5	2.8
下旬	上層	28.4	13.3	3.4
	中層	28.4	17.3	3.4
	下層	28.4	18.2	3
月間平均(7月)	上層	28.1	11.8	3.9
	中層	28	15.3	3.3
	下層	27.9	15.9	3.2

(水温・塩分平年値は、島根大学 宍道湖・中海水質月報、1994年5月より引用)

(表中の数字は、平均値を示す)

水質

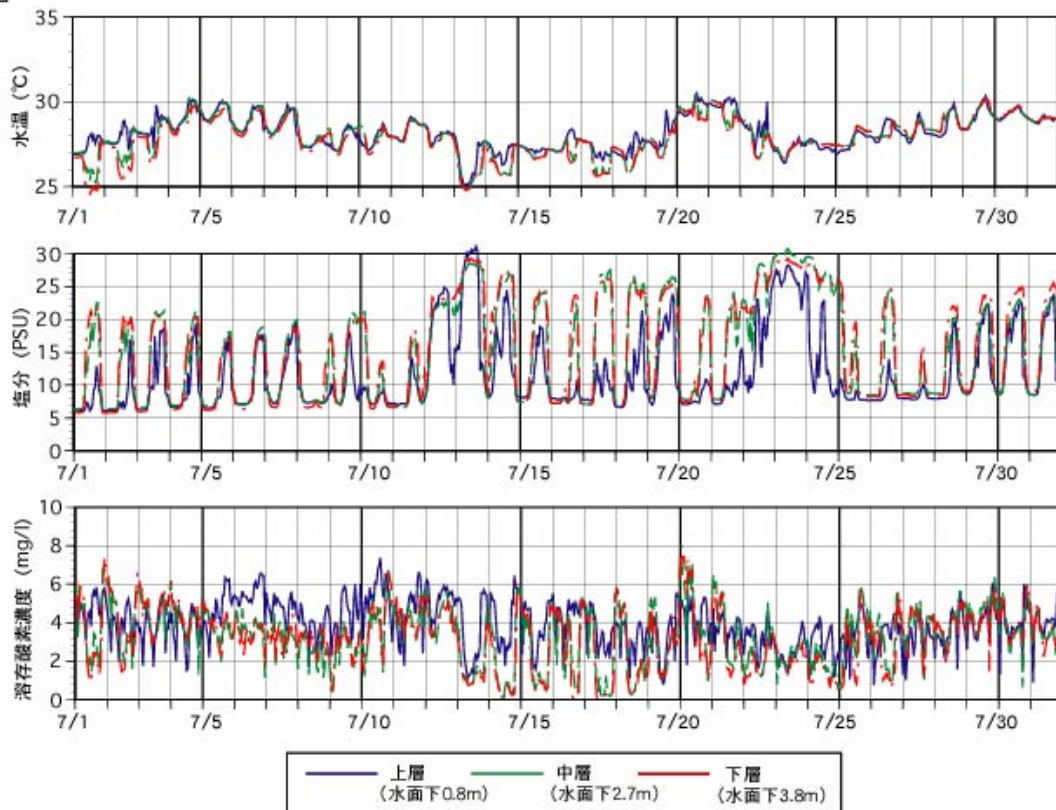


図1 水温・塩分・溶存酸素濃度の時系列変化

気象概況

7月は、表2に示すとおり、平均気温27.2（平年値25.2）であり、若干高い値を示していた。

図2に示すように、7月の顕著な気圧変動は、7月8日、12日および7月21日～30日が顕著であった。平均気圧1006hPaは、平年値（平年値1008hPa）と比較して若干低かった。

表2に示すとおり、7月の日射量は、0.134 MJ/m²であり、6月と比較して若干高い値を示していた（6月平均値：0.115 MJ/m²）。

7月の風向・風速は、平均風速2.4 m/sec（平年値3.2 m/sec、西風）であり、平年並であった。

表2 7月期の気象概要

	気温()	気圧(hPa)	風速(m/sec)	風向	日射量(MJ/m2)
上旬	25.8	1008	2.2	南	0.159
中旬	27.5	1008	2.4	西	0.12
下旬	28.3	1001	2.7	南西	0.124
月間平均(7月)	27.2	1006	2.4	南西	0.134

(平年値は、平成12年気象の暦(山陰版)(財)日本気象協会中国センターより引用)
(表中の数字は、平均値を示す)

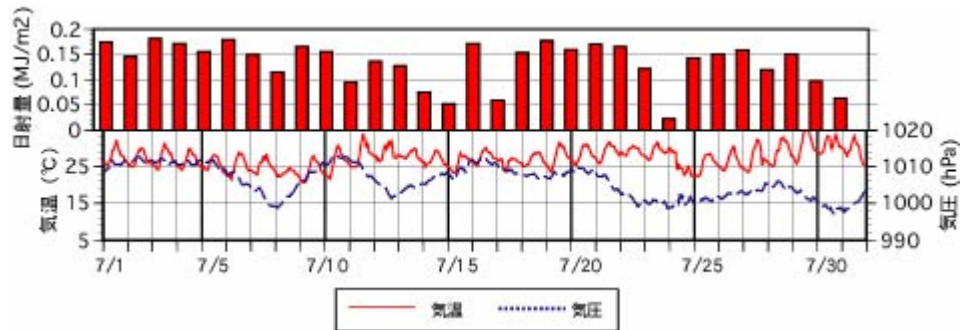


図2 気温・気圧・日射量の時系列変化

流況

7月期の平均東方流速は、上層 7.8cm/sec、中層 4.3cm/sec、下層 4.5cm/secであった。7月の東方流速は、7月8日、12日および7月21日～30日の気圧低下時の中層および下層において、中海から宍道湖へ向かう流れが卓越していた。7月においては、全体的に中・下層では中海から宍道湖に向かう流れが卓越していた。

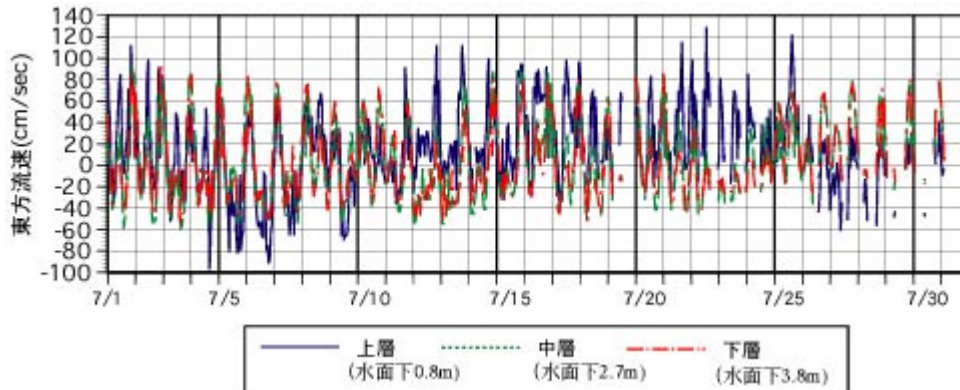


図3 東方流速の時系列変化